

国家の輪郭と越境

The Contours of State and Border-Crossings

— 『Mother India』を読む —

第1回研究会のお知らせ

下記の通り、第1回「国家の輪郭と越境」研究会を開催いたします。

参加自由ですので、ぜひご参加ください。

日時 平成21年4月28日（火）15時～17時

場所 大阪大学箕面キャンパス

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/accessmap.html>

総合研究棟6階「国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム

研究会題目 『Mother India』を読む

趣旨

本研究会は、「地域大国」としてのインド、中国、ロシアがこれまでいかに描かれてきたのかを、多様な資料を精読して、広く検証することを目的とする。

第一回目に取り上げる『Mother India』は、アメリカ人著者 Katherin Mayo が英領インド視察後に作成したものである。作中でメイヨーはインドの後進性を強調し、自治には不適當であると結論づけた。

同書が1927年に出版されると、インド国内外で大きな論争が起こったが、「母なるインド」のイメージは現在も用いられており、「インド像」を検証する上で基本文献となっている。

本研究会ではこれを精読し、メイヨーが描いたインドを再検証する。講読後は論争の分析考察に入り、インドのイメージの成立過程と変容について考えたい。

使用テキスト Katherine Mayo 著『Mother India』1927年
(テキストは配布します)

問い合わせ先 「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局
dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp